

「臍切除のテクニックと患者管理」

久留米大学教授・第2外科 中山 和道 著

帝京大学教授・第1外科

高 田 忠 敬

“臍頭十二指腸切除術が臍・胆道外科専門医としての私を育てた”と、著者自身が述べられているように、著者の中山和道氏は常に臍・胆道外科の最先端を走り続けてこられた。当初、氏の芸術的とも言える繊細なテクニックをもってしても、臍腸吻合縫合不全などの合併症に悩まされていたという事実は、この問題がいかに大きなものであるかを示している。

今日、臍頭十二指腸切除術が市中の一般病院でも行いうるようになった背景を考えると、術前術後管理の進歩に負うところも大きい、それ以上に外科学会や消化器外科学会をはじめとする諸学会での議論、啓蒙が大きな役割を果たしてきた。その学会活動の中心で活躍してきたのが、中山和道氏であり、氏の明快な論調と情熱あふれるパフォーマンスによって、私をはじめ全国の外科医に多くの支持者がいることも事実である。また、氏による種々の手

技の工夫などの積み重ねがこの臍頭十二指腸切除術をより安全なものとしてきた。

百聞は一見に如かずと諺にあるが、私も一度、氏の手術をこの目で見たいと思い、久留米大学での手術を拝見したことがある。氏は、その声の大きさで有名であり、さぞかし手術も大胆なものかと予想したものであるが、あにはからんや、まことに繊細な手術をなされ、また、出血させるということを嫌い、いつでも手術野は無血の状態であった。しかも操作は和気あいあいのうちに行われ、見ていても心地よいものであった。

本書は、そのような手術の天才、または芸術家とも言えるべき著者が臍頭十二指腸切除術と共に歩んだ歴史を軸に、臍切除におけるテクニックを的確な術中写真およびシェーマを交えてわかりやすく述べたものである。

本文は臍手術にぜひ知っておきた

いアナトミー、手術適応と術式の選択、愛用する小道具、臍への到達法、術中精査、臍断端の処置、臍切除術、臍管空腸吻合術、その他の臍手術、術前・術中・術後の患者管理のポイント、の10項目から成る。これらの見出しからだけでも臍臓をいかに取り扱うべきかという著者のポリシーと、大胆にして繊細な著者の人柄が表れており、大いに引き付けられる。

更に、coffee break というコラムが随所に設けられ、通常のタイプの成書では触れられない、あまり人に明かしたくないような、いわゆる手術の勘所も惜しみなく、多数述べられている。次代のスペシャリストを育てようという、外科医の本懐とも言えるべき著者からの熱いメッセージを読み取ることができる好著である。

● B5横判 192頁 図154 写真45
原色図40 色図2 1994 定価
16,480円(税込) 円400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)